



連携事例37

R7.3

みんなの心のよりどころ 「ホッとステーション」



ホッとステーションでちいき食堂やフードパントリーを開催している様子

■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

- ・特定非営利活動法人リンク

■協働パートナー

- ・医療福祉機関：65 機関
- ・公共機関：6 機関
- ・寺社団体：4 機関
- ・観光機関：6 機関
- ・飲食店：7 機関
- ・教育機関：13 機関
- ・商工機関：18 機関
- ※計 119 機関・団体

■事業費

617 万円

■資金調達手段

助成金・寄附・運営団体負担

事業概要

地域住民誰もが、身近な地域で気軽に安心して過ごせて、時には相談もできる場所、社会とのつながりもてる地域社会の実現を目的として下記の活動を展開する。

- ①山武圏域及び千葉県内の機関・団体に協働してもらい、いたるところに『気軽に居てもいい』居場所（ホッとステーション）として設置する。
- ②一部の機関で相談スポットやボランティアができる場所、ちいき（子ども）食堂やフードバンク活動を展開する。
- ③協同機関のネットワークを構築して、平時の地域情報共有と発災時の協力体制の確保が図れるネットワークを作る。
- ④夏季限定で熱中症予防活動として「クールステーション」としての役割を担う。現在、居場所のマップ化を進め住民が活用しやすい情報ツールを作成中。

特徴

- ①市町村単位ではなく、一人一人の生活圏域を対象とした事業。
- ②ホッとステーション（居場所）を基盤として、複数の活動を連携させて実施する事業
- ③全世代を対象とした事業。
- ④地域の機関・団体が可能な範囲で「人・モノ・情報・場所」等の協力をしてもらうことで成り立つ事業。
- ⑤孤独・孤立、ひきこもり、生活困窮者、就労・居場所等にかかる活動自体を社会資源の一つとして活用する事業。
- ⑥「ここに生まれ」ではない、「いろんな場所があるよ・よかったら使って」の場所を増やす。
- ⑦「利用する人・活用してもらう人（機関）・地域社会」が相互に『三方良し』の関係。

協働までの経緯

- ①居場所の社会資源を新たに創るのではなく、今ある社会資源を可能な範囲で地域に提供できれば、行政区画ではなく生活圏域での地域づくりが可能であると考え、本事業を計画した。
- ②WAM助成の「地域連携活動支援事業」として複数事業を一体的に実施する事業として申請し、

採択。

- ③圏域内行政及び関係機関へ説明会を実施、また地域の機関・団体・店舗等に1軒1軒説明を行い、協同を依頼した。
- ④官民で構成される実行委員会を創設し、意見を出し合いながら活動を展開する。
- ⑤ホッとステーション機関に「ステッカー・のぼり旗・ベンチ」等を設置し、地域の居場所を周知し、相談スポット・子ども(ちいき)食堂・フードバンク活動等を展開した。
- ⑥事業2年目に、夏の熱中症予防活動として、行政の行うクーリングシェルターと連携する、夏限定の「クールステーション」を開設し涼み処等の提供を開始した。
- ⑦山武圏域から始まった活動は、3年目を迎え、千葉県全域を対象として、現在9市町、119機関(クールステーションは100ヶ所)に活動を拡充している。

📌 主な事業内容(年間スケジュール等)

- (1). ホッとステーション(気軽に居てもいい居場所)の設置:(通年・各協同機関が可能な範囲)
- (2). (1)の中で、相談スポットやボランティア等ができる場所、ちいき(子ども)食堂やフードバンク活動の設置(通年・各協同機関が可能な範囲)
- (3). (1)の機関で協同機関ネットワーク(SNS)を作り情報共有、災害時の防災ネットワークとして運用:(通年・随時)
- (4). (1)の中で任意にクールステーション(熱中症予防)活動実施:(7月~9月・各協同機関が可能な範囲)
- (5)居場所(ホッとステーション・クールステーション)等のマップ化:(通年・全協同機関)

📌 主な協働パートナーとの役割分担

- ・事務局(特定非営利活動リンク)
- ・実行委員会…16機関
- ・ホッとステーション(居場所)…119機関
- ・クールステーション…100機関
- ・相談場所…45機関
- ・ボランティア受入・就労訓練等…13機関
- ・ちいき食堂…12機関
- ・フードバンク…13機関
- ・情報周知協力…38機関
- ・情報ネットワーク…60名

📌 協働事業によって生まれた成果

- ❖連携団体にどのような成長が見られたか
 - ◇居場所活動の展開から、熱中症対策となるクールステーションを官民協働で取り組めるようになり、具体的な活動イメージが浸透した。特別なことをするのではなく、出来ることを分かち合うことで、地域づくりにつながっている。
- ❖連携によりどのような相乗効果があったか
 - ◇各事業が連動しあい、活動の拡充ができています。
 - ◇各機関・団体が知り合い、活動の周知を相互に行えることによって、分野を越えて地域機関・団体の活動が具体的に見えるようになった。

[各活動の発展と拡充]

1. ホッとステーション: 2022年度末(1年目)62機関→2023年度末(2年目)107機関
→2024年7月(現在)119機関
2. クールステーション: 2023年度末(2年目)89機関 →2024年7月現在100機関
3. 子ども(ちいき)食堂: 2022年度…21回→2023年度…32回
4. フードバンク活動 : 2022年度…寄付受取76件/物資配付90件
→2023年度…寄付受取108件・寄付量5.6t/物資配付219件・配布量3.3t

♡ コラボのコツ!!

1. 官民協働事業として実施することで、周知協力や理解が得られやすかった。
2. できる範囲で、無理をしない協力してもらうことで、あまり負担感なく、継続して活動してくれている。
3. 各機関の状況や催事を相互に周知できることを機関の「メリット」として感じてもらうとともに、発災時に防災ネットワークとしても活用できることで我が事として考えてもらえた。
4. 猛暑熱中症対策として、クールステーション(涼み処)と設置することで、居場所や本事業の理解が得られた。
5. フードバンクの寄付品等を活用することで、経費をあまりかけず運営できるようになった。が結びつき一つの大きな輪になったと感じています。

今後力を入れていきたいこと

○力を入れていきたいこと 1

本事業は、いくつもの機関・団体が協同機関として活動してくれることで成り立っている。地域の居場所づくりを通じて、孤立孤独対策、地域社会を相互に知り合い・可能な範囲での協力体制を今後も官民協働で続けていきたいと考えている。

○力を入れていきたいこと 2

本活動を千葉県全域に拡充させていき、「ホツとステーション」が居場所支援活動のスタンダードとなるように、たくさん住民に活用いただき、協同機関と共に活動を一緒に育てていきたい。

ホツとステーション
みんなの心のよりどころ

居場所づくり
+ 地域に相談スポットをたくさん作る
+ 協同機関のネットワーク創り

制度の狭間の支援
地域包括ケアシステム
地域共生社会
重層的支援体制整備事業
孤立・孤独の支援
不登校・ひきこもり
生活困窮支援
SDGs
メンタルヘルス
居場所づくり
地域連携・ネットワーク

クールステーション 始めました
凍んだり水分補給できます。
熱中症予防協力店

ホットステーション体系図【居場所を活用した多機能活動】



【居場所連携活動について】

私たちは日々の生活の中で、それぞれ「居場所」を持っており、それは居心地が良い場所であったり、誰にも知られたくない場所の場合もあります。あるいは居心地の悪い場所に居ざるを得ない人もいると思います。また、身近な地域が安心する人もいれば、プライベートを知られずゆっくりできる場所が安心できるという人もいます。それは、「居場所を作ったからみんな集まれ！」というのではなく、「それぞれが居場所と思える場所や人を見つけられる」ことだと思っています。

ですから、本事業は厳密に言えば「居場所づくり」ではなく、「居場所活動の仲間づくり」と「地域の方々が、それぞれにとっての心地良い居場所利用」の普及だと考えています。地域が繋がり、「人と人・機関と機関・地域と地域」が繋がれる活動でありたいと思っています。

協働事例プロフィール

【活動開始年】 2022年4月 【活動のPR手法】 ホームページ「https://npo-link.jp/hotto_station/」
 【この事業で活用した補助金】 WAM助成（社会福祉振興助成事業）
 【表彰歴・マスコミ掲載歴等】 ホットつながるフェスタ 2022（2022年12月2日実施）
 ホットつながるフェスタ 2023（2023年12月1日実施）
 WAM助成事業報告書 2022・2023 作成（ホームページ内掲載）
 【問い合わせ先】 担当者：吉井 電話番号：0475-77-7531 メールアドレス：info@npo-link.jp

SNS
・
HP
関係

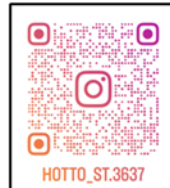
ホットステーション
/マップ



フードバンクさんぶ



ホットSTインス
タグラム



寄附・協賛金募集

